

他科の先生に  
知って欲しい

## 豆知識・・・産婦人科編⑦

## 若年者でも淋病、クラミジアの検査を積極的に行ってください

ウィメンズクリニック・かみむら院長 上村茂仁



排尿痛を伴う尿道炎、咽頭痛、女性の帯下の異常などの原因として淋病、クラミジアがよく見られます。

排尿痛、尿道痛と尿道分泌物を主症状とするものを一般に尿道炎と呼びますが、症状は尿道不快感、尿道掻痒感など様々で、ときには尿道分泌物のみの場合もあります。また、性感染症の中で罹患数の多い淋病、クラミジアはオーラルセックスを介して感染する人の増加が指摘されています。若年者の患者さんが来た場合、たとえ中学生であってもこのことは否定できず、また、

性行為経験がなくてもオーラルセックス経験の女子学生の数も多く、咽頭痛の原因疾患として無視できないものになっています。

婦人科医としては、必ず検査する項目ですが、内診などが出来ない科の先生方にとっては難しい疾患になるのかもしれませんが。しかしながら、内診ができなくても、咽頭擦過検査をしなくてもこれらの診断は可能です。

現在、保険適応で尿での淋病、クラミジアのPCR検査が尿道炎のみならず、女性の子宮頸管炎の検査でも可能になっています。また、咽頭炎に関しても保険適応で生理食塩水のうがい水を検体として提出すれば検査はできます。検査結果も基本翌日わかるので、上記症状を訴えられた患者さんに関しては、是非やっていただきたい検査です。

治療としては、淋病の場合は第一選択、セフトリアキソン、静注1gの単回投与。第二選択としてスペクチノマイシン、筋注2g、単体投与を行います。しかしながら、スペクチノマイシンの筋注は咽頭淋病には有効ではないので、この場合はセフトリアキソンのみが有効です。

クラミジアの場合は、アジスロマイシン1回1,000mg 1日1回、クリスロマイシン、1回200mg、1日2回、7日間、シタフロキサシン、1回100mg、1日2回、7日間、ミノサイクリン、1回100mg、1日2回、7日間が適応となります。

治療後の再検査は必要です。治療終了後、2週間以上経過した時点で、同様の検査を行って陰性を確認してください。一般には、上記の治療でまずは大丈夫です。

なお、非クラミジア、非淋菌性の尿道炎としてマイコプラズマ感染症が増加しています。性感染症としても重要な疾患であり、検査、治療を必要としますが、現在、保険適応でないため検査自体が特殊で高価です。難治性のものも多く、早急に保険適応化を進めるべきだと思います。